別添資料5

クロネコヤマト
コミュニティサイクルを通じたまちづくりのご提案

運営コストゼロを目指したコミニュティサイクル

ヤマトホームコンビニエンス株式会社

コミュニティサイクルとは

利用者がどこでも貸出・返却できる利便性

＋

社会的なメリット

- 違法駐車削減、市街地の渋滞緩和、Co^2排出量の削減
- 放置自転車の削減と街の美化・安全確保
- 不正駐輪の排除、利用率の向上
- 公共交通機関と連結した地域交通網の確立
- 観光地の回遊性向上（新しい観光スタイルの確立）
- 駐輪場に係る土地、人件費の削減

世界でも導入が進んでおり、
都市の新たなインフラとして注目を集めている！

パリのコミュニティサイクル『ベリブ』
（2007年7月15日運用開始）

コミュニティサイクルとはレンタサイクルの形態のひとつ。
街中にいくつもの自転車貸出拠点（ポート）を設置し、
利用者がどこでも貸出・返却できる新しい交通手段です。

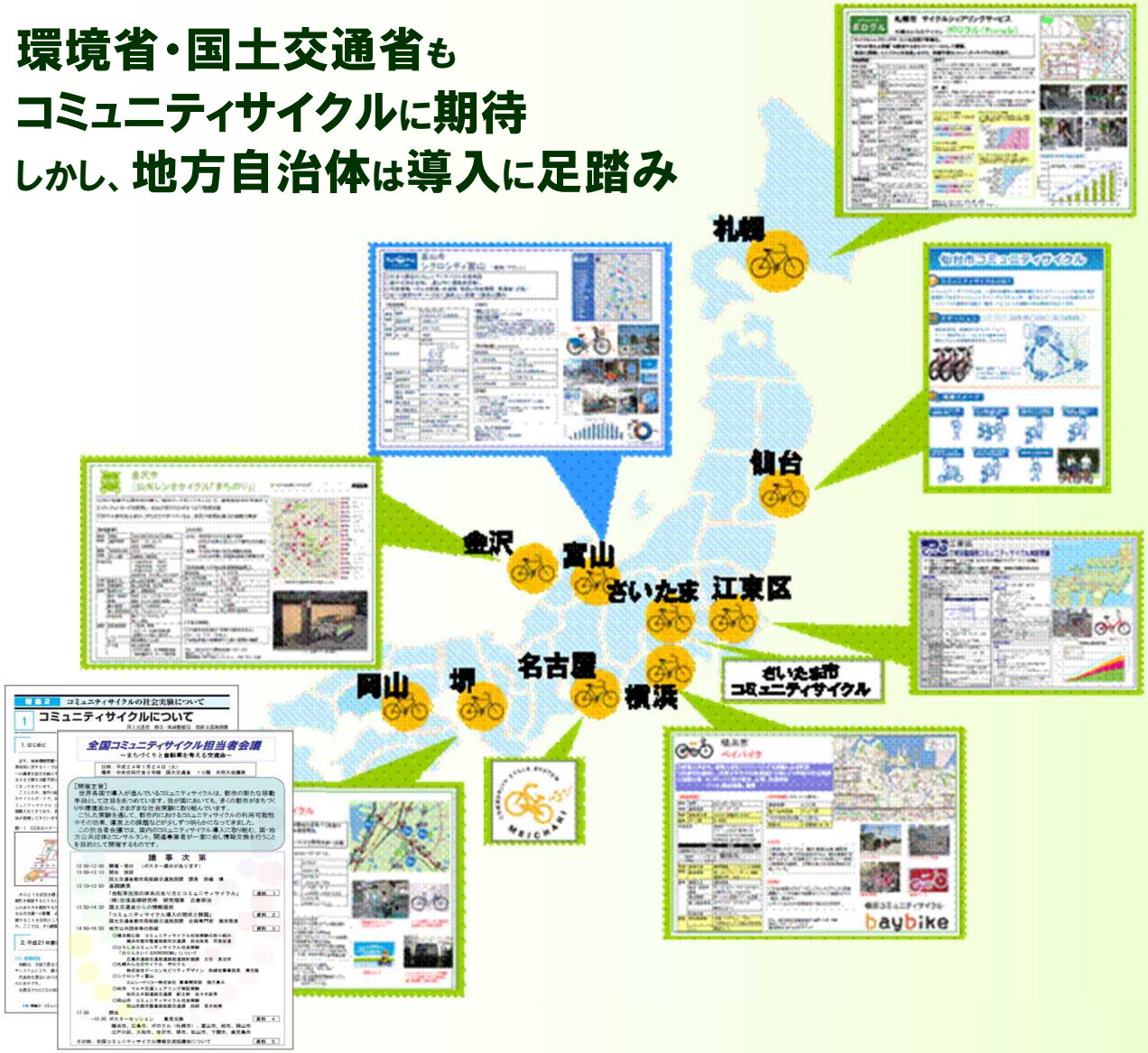
海外では広く普及しており、パリ、オスロ、バルセロナ、
コペンハーゲンなどでは、中心市街地での公共交通の一環
として、自転車シェアリングが根付いています。

コミュニティサイクルは、利用者がどこでも貸出・返却できる
利便性だけでなく、１台の自転車をふく数人でシェアする事で、
市街地の渋滞緩和・観光地の回遊性向上などのメリットも
あります。

このようにコミュニティサイクルは世界でも導入が進んでおり、
都市の新たなインフラとして注目を集めています。

全国の取り組み

環境省・国土交通省も
コミュニティサイクルに期待
しかし、地方自治体は導入に足踏み



日本では100都市以上で社会実験が実施され、全国10都市で実運用が始まっています。

滞在時間の増加意識が多数挙げられるなど、地域の活性化、「まちの価値」向上が期待されていますが、どの都市も機械式の無人ポートでの運用がメインとなっており、年間1千万以上の赤字運営となっています。

そのため、各地方自治体は導入したくても足踏みをしている状態です。

参考資料：国土交通省HP・社団法人日本交通計画協会

広島市のコミュニティサイクルの取り組み

世界に誇れる「まち」の実現に向けての取組み
広島市長　松井 一實（まつい かずみ）

① 「活力にあふれにぎわいのあるまち」の実現
　　都市機能の充実強化
② 「ワーク・ライフ・バランスのまち」の実現
③ 「平和への思いを共有するまち」を実現

↓

自転車環境促進

都市構造を形成する上で公共交通を中心とした
都市内交通の円滑化が不可欠。
自転車は、都市内交通の一翼を担う乗り物

↓

ビジターズ受入環境づくり

初めて来た人でも気軽に移動でき快適に過ごせる、誰もが利用しやすい交通手段の確保

↓

レンタサイクル社会実験

自転車都市ひろしま 検討例
・**レンタサイクル運営方法の検討**
・1日駐輪券の導入・路上駐輪場の検討・附置義務の見直しの検討
・自転車利用者のための情報ツールの作成
・JR等交通事業者による駐輪場設置の協力

↓

コミュニティサイクル本格導入

広島市中心部『観光レンタサイクル』検討中
・貸出返却施設6箇所以上、自転車台数100台以上
・どの自転車貸出返却施設でも、貸出・返却できるシステムが基本
・クレジットカード、現金、電子マネーで支払いが可能　など

今、広島市は世界に誇れる「まち」の実現に向けて大きく3つの取り組みを行っています。

その中の1つに
「活力にあふれにぎわいのあるまち」の実現
がありますが、その施策の中で都市機能の充実強化を挙げています。

都市構造を形成する上で、公共交通を中心とした都市内交通の円滑化が不可欠としており、中でも自転車はその一翼を担う乗り物として重要視されています。

そして、来訪者をもてなす取り組みの中でも自転車の活用に着目しており、
２０１３年３月まで2年間にわたりコミュニティサイクル社会実験が行われていました。

この社会実験の実績と反省を生かし、来年度には本格導入を目指しています。
実際に、この2月発表された広島市予算案に観光レンタサイクルの予算も入っています。

ひろしまコミュニティサイクル社会実験『のりんさいくる』概要

- 自転車の共同利用サービス
- サイクルポートからの貸出・返却
- クレジットカード・会員登録が必要
- 登録利用者 3，592人（平成25年3月10日現在）

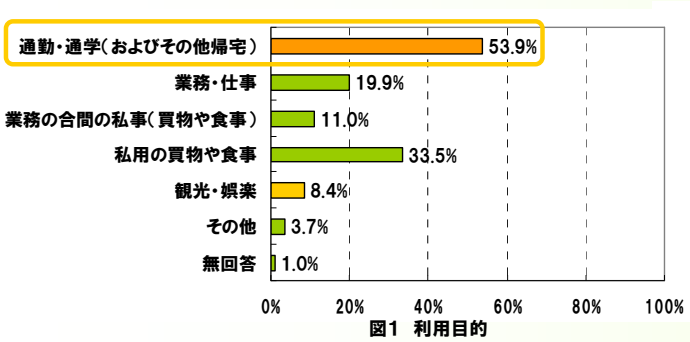


図1　利用目的

（平成23年11月 広島市道路交通局道路部道路計画課アンケート調査結果）

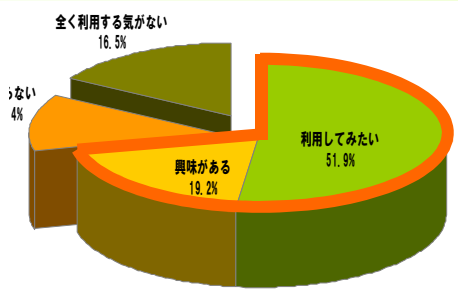


図2　のりんさいくるの利用意向

71．1％の非利用者が「関心がある」と回答

➡ まだたくさんの需要が期待できる

- クレジットカード・事前登録が必要で、来訪者に不向き
- 拠点が少なく、駅～市街地間の利用がメイン
- 利用時間帯の偏りによる回転率の低迷
- サイクルポート維持費等、高コスト

『活力にあふれにぎわいのあるまち』には ほど遠い

社会実験『のりんさいくる』は、
広島市内中心部11ヶ所しかない無人ポートから
貸出・返却ができるサービス。

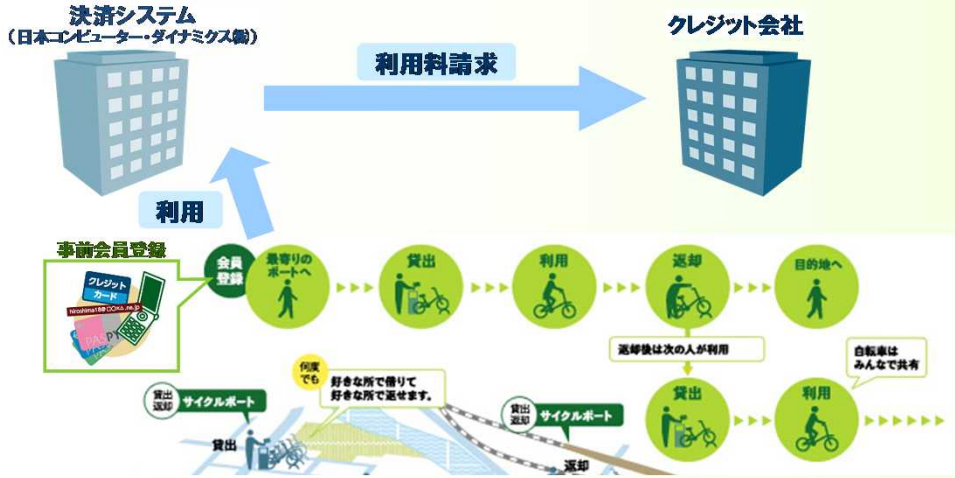
利用者の約半数は会社員の方で、主に通勤で利用されていました。

問題点は、拠点が少なく、広島駅と市街地の間を通勤で使う方がメインとなってしまい、
利用時間も平日の朝と夜にかたよってしまった事。
また、クレジットカードの使った事前の登録が必要で
観光で広島を訪れた方に不向きでした。

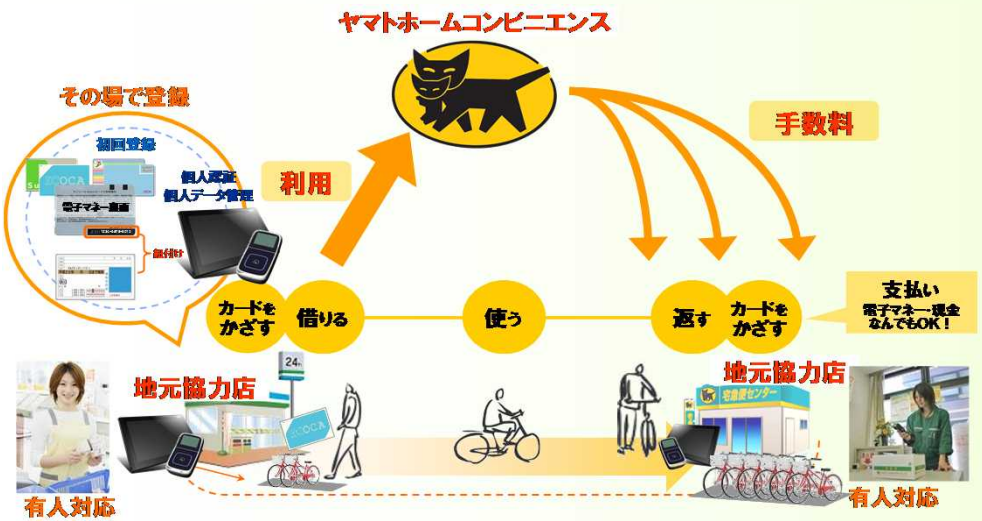
ヤマトグループのコミュニティサイクルは、
これらの課題を解決し、まちづくりを目的としたサービスをご提案します。

クロネコヤマトが提案するコミュニティサイクル

従来型（無人サイクルポート）



クロネコヤマト提案型（有人サイクルポート）



現行のコミニュティサイクルは機械式無人サイクルポートが主流。
無人式により、人件費などコストを抑えることが可能である反面、
人とのふれあいの場が減少しコミニュティサイクル本質である
「まちづくり効果」が半減している実態があります。

また、利用者側もクレジットカードによる事前登録が必要で
来訪者の方、学生の方などには不向きなサービスでした。

貸出・返却が機械で完結するため地域企業への収益性はなく、
経済効果も充分ではありません。

クロネコヤマトの考えるコミュニティサイクルは、

地元企業が自店の空きスペースを活用し駐輪スペースの確保や、
貸出・返却業務を通常業務へ組入れることでコストを抑え、
地元企業へ手数料を還元、収益性の向上、利用料金の値下げが
可能となり、さらには、市民・来訪者のふれあいの場の拡大にも
つながると考えています。

ご希望のある地元企業・商店様には当社の取扱店に登録し、
まちのサービスステーションの役割を担っていただきます。

つまり、まちづくりの一環として 地元企業・商店が
市民・来訪者の為に、協力してつくりあげるコミニュティサイクルです。

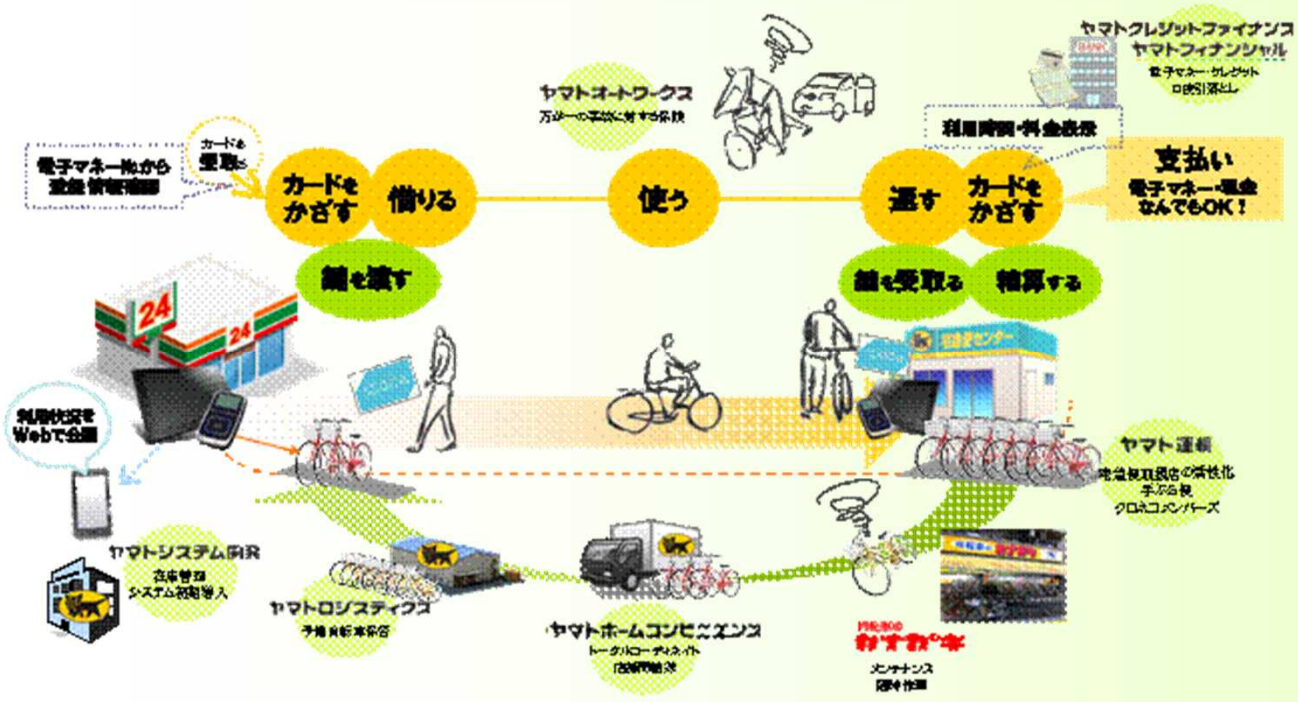
社会的貢献度の高い「有人式」を採用したコミニュティサイクルの提案

クロネコヤマトが描く運用フロー

※システムイメージ

※初回会員登録・貸出・返却は、基本的に利用者にて操作

- 店頭のタブレットにて貸出・返却等の操作
- 英語・中国語・韓国語に対応



利用者の方には、どこでも好きな協力店へ行き、初回は店頭で簡単な会員登録を行っていただきます。

そして、その場で自転車を借りて目的地近くの協力店で返却します。

ご協力いただく地元企業の皆様には、自転車数台を置くスペース、鍵の受け渡しについてお力になっていただきます。

自転車・使用するシステムは全て当社が準備します。システムの多言語化、自転車の在庫調整など、サービスの運用はヤマトグループ各社でバックアップ。

ご協力いただく企業の皆様へのご負担は最小限に抑えます。

導入自治体・協力店のメリット

環境

- 公共交通の利用促進
  →地球温暖化防止への取組み

  環境問題への取り組み推進

地域貢献

- フィーダー交通の整備
- 市民・来訪者の利便性向上
  →地域活性化
- 災害時、自転車利用の開放
  （帰宅困難者支援）
- 企業イメージの向上

収益

- 来店客増加
- 既存顧客の利便性向上
- 拠点マップ掲載による宣伝
- 初期投資・資産管理不要

このコミュニティサイクルは
広島市民・来訪者の方々の利便性はもちろん、
ご協力いただく地元企業の皆様の支援にも
つながると考えています。

交通インフラの一部になることで、近年注目されている
環境問題への取り組み、地域活性化や災害時支援
など、地域への貢献にもつながります。

また、初期投資・資産管理が不要でお客様への付加
サービスにもなり、貸出・返却拠点としてマップなどの
掲載で宣伝にもなります。

そしてヤマトグループは、

運営コストゼロを達成します。

最後に

交通インフラの一部として確立し、都市内交通の円滑化に貢献

- 公共交通機関の利用増加・渋滞緩和
- 不法投棄・放置自転車の減少
- 地域の活性化

市民の利便性向上と、ビジターズ受入環境づくりが整う

広島市長が掲げる

「活力にあふれにぎわいのあるまち」の実現

このコミュニティサイクルは
まちづくりという大きな目的があります。

交通インフラの一部として都市内交通の円滑化に貢献することで、
広島市民の利便性、来訪者の受入環境をより良いものにでき、
「活力にあふれにぎわいのあるまち」の実現に
つなげることができると考えています。

地域発展を願う主旨をご理解の上、皆様のご協力お願い致します。

いつでも貴市町に打ち合わせに参ります。